

シマツタ！ あたった！ 中った！

無名 戦士

2010年は沢山の野生きのこを食べました。奥日光ではタモギタケ、ホコリタケ、ハンノキイグチ、八ヶ岳ではコウタケ、クロカワ、ジコボウ（ハナイグチ）、マツタケ、ヤマドリタケ、富士山では、モミタケ、マツオウジ、スッポンタケ、カベントケ、清和県民の森では、バカマツタケ、ガンタケ、ハナヒラニカワタケ、ムラサキヤマドリタケ、市原市民の森では、カラカサタケ、ホンシメジ、ヤマドリタケモドキ、近くの里山で、ハルシメジ、カンゾウタケ、アミガサタケ…。

毒きのこには絶対中るまい、と自負していた私が、2011年は見事に中ってしまいました。秋さる森に入り、ウラベニホテイシメジ（通称イッポン）を採って帰りました。日頃クサウラベニタケとの違いは、標本を手に、手取り足取り、度々と教わってきたので、同定には自信を持ったのが、大怪我のもとでした。

手に取って両者の違いを観察するも、個体は大きい、傘にエクボは無いものの絹状繊維模様もあるように思える、柄は中実で太くしっかりして、あまり？曲がっていない、ヒダは肉色粉臭があるが、わずかに苦いかな？の程度でした。そこで、家人の留守をよいことに、こっそりと煮つけにして、御昼のおかずにして一本試食してみたところ、私はイッポンを食べたことが無かったのですが、ハルシメジのような、歯触り、味もそこそこでしたので、更に二本（きのこは何と数えるのか？）を食べました。食後は1時間余りを、きのこのことはすっかり忘れて、テレビを見たり、新聞を読んだり寛いでおりました。然し、ここからが悲劇の始まりでした。

甚だ尾籠な話で、食事中でしたら恐縮します。何となく、胃に膨満感を覚えると同時に、弱い便意がありましたので、便座に腰かけました。

すると、まるで堰を切ったごとく OBUJET が、便器も割れんばかりにダァーっと…。

シマツタ！ あたった！ 中った！ クサウラベニタケに中ったことを自覚しました。まずは、胃の洗浄のため、お茶を1リットルほど一気に飲み干し、のどに指を刺し込み、勢いよくゲエー！と…。ところが、昼食がソバだったので、胃の「内容物」はもはや殆ど残って居りません。

更に3度ほど、強制嘔吐をしましたが、涙は出るは、目眩はするは、散々な思いでした。ほっとする間もなく、第二波が来襲です。今度は、いきなりのお知らせ、急いで厠に急行し、腰をかけると同時に BBBbbbi x *@!

その後、20分ぐらいの間隔で、7回部屋と厠との往復が続くうちに、もう便器まで我慢が出来なくなって OMORASI をするやら、出口が爛れて、痛くて紙も使えない状態に陥りました。

その度に、水分補給と脱水作業を繰り返して、徐々に症状が治まりましたが、たった半日で2.5キロも体重が減ってしまいました。ただ、翌日一日、小便が薄いピンク色でしたので、腎臓にも負担がかかったかと思えます。こうして、私の悲劇は喜劇で終了しましたが、今にして不思議なのは、図鑑にある症状は「食して30分から1時間ほどすると、猛烈な腹痛、下痢、嘔吐を呈す」と有りますが、腹痛、嘔吐の症状が全然無かったことです。然らば、これは本物のクサウラベニタケでは無かったのか？ウラベニホテイシメジにより形の近い、イッポンシメジ属の何者かだったのか。もしそうであつたら、本種の中毒症状は「猛烈な下痢を呈すものの、腹痛、嘔吐は無い」となり、私は貴重な「人体実験」をしたか、単なる「未必の故意」の自作自演か、いずれにしても自慢の出来る話ではないので、名を伏せさせていただきます。